

「読書の時間」

京都聖母学院高等学校 1年 山口紗良

私が幸せを感じる時、それは「読書の時間」だ。両親共に本が好きで、家には沢山の
本がある。幼い頃は、たまに気が向いた時に本を読む程度で、さほど本好きという訳では
なかった。小学校の休み時間には、友達と中庭や校庭で、鬼ごっこをして遊んだり、ど
ちらかという体を動かして過ごすことが多かった。私に読書の習慣がつくようになった
きっかけは、小学校五年生のクラス替えだった。仲が良い友達とクラスが離れ、新しいク
ラスになじめずにいた。特にいじめられていた訳でもなく、仲間外れにされていたわけ
でもないが、特に気の合う友達もできずに、休み時間が手持ち無沙汰になった。最初、暇を
つぶす為に本を読み始めたが、気が付くと、本に夢中になっていた。自分が体験したこと
のないような世界や、出会ったことがないようなタイプの登場人物。時代や場所を越えて
繰り広げられる内容にわくわくし、毎日学校が終わると、一目散に帰宅して、本の続きを
読むようになった。高校生になった今でも、その習慣が続いており、通学時、電車の中で
本を読むことが日課となっている。

好きな作家は有川浩と東野圭吾で、特に有川浩の書いた作品の中では「図書館戦争」シ
リーズが好きだ。青少年に悪影響を与えるとされた本は撤去されてしまうという恐い社会
を描いたものだが、それを阻止しようと頑張る図書館隊の活躍が素晴らしい。東野圭吾の
本も随分沢山読んだが、「麒麟の翼」という本が非常におもしろく、物語の舞台となった東
京の日本橋にも連れて行ってもらった。本の中に出てくる場面を訪れてみることも、読書
をする上での、また違った楽しみ方でもある。

読書をする上で、もう一つ楽しいことがあるのだが、それは、内容について家族で意見
を交換することだ。父や母に勧められて本を読むことも多く、読み終わった後に、「このシ
ーンはどういう意味？」とか、どういう感想を持ったかなど話し合うことも、又楽しい。
当たり前だが、読む人によって感じ方や、とらえ方が違い、それを聞くことも、参考にな
る。近い将来、進学や就職で、家族とこういった時間も持てなくなるかもしれないので、
今の内に沢山意見を言い合っておこうと思う。

今後はもっと色々なジャンルの作品を読みたいと思うし、友達とも感想を言い合っ
てみたいと思う。

又、私は将来、高校の国語教師を目指している。生徒に読書の素晴らしさや、楽しみを
広げていきたい。私に読書を進めてくれたのは両親だったが、私のように読書好きを一人
でも増やせるようにというのも、私が教職を目指すことになった理由の一つだ。今後は沢
山の本を読んで、周りの人と読書を介して繋がっていく。このことも幸せを感じる時間と
なっていくことだろう。